

イメージを重ねて

三宅智子
(幼稚園教諭)

私は大学卒業後、東京都の公立幼稚園で働いており、今年度は三十五人の元気いいっぱいな年長組の子どもたちを担任しています。年長組に進級し、新入園児も加わってスタートした一学期。その中で子どもたちが繰り返し楽しんだ遊びの一つだった「リニアモーター カー」の遊びを振り返ってみたいと思います。

リニアモーター カーが作りたい

「大きい電車が作りたい。本当に走るようにしたいんだ」とA児が言いにきました。「僕も！」とB児も一緒に、「どんな電車にした

いの？」と聞くと、「リニアモーター カーがいい」とA児が答えました。そこで、三人で図鑑で探してみました。A児は電車のページの中からすぐに見つけ、「あつたあつた！ すごく早いんだよ」と指さして説明を始めました。B児は、図鑑を見ながらA児の熱い説明を聞き、「かっこいい。いいね、これにしよう」とうれしそうにしています。「何で作ろうか？」と聞くと「タイヤを付けて動くようにしたい。材料の部屋にあるのを使う！」とのこと。教材室にあるキヤスター付きの平板（台車）を、昨年度の年長組が使っている

三宅智子（みやけともこ）
公立幼稚園教諭。

のを見ていたのだと思ひます。そこで、まず車体を段ボールで作ることにすると、はけを使つて張り切つて絵の具を塗つていきました。

次の日、登園すると「乾いたかなあ?」と真っ先に段ボールを見に行つたA児。A児とB児の他にC児とD児も加わり、私も仲間となつて一緒に考えながら組み立てていきました。段ボールを台車に固定し、先端部分は斜めにとがるようにしました。「ここにはライトを付ける」と黄色く塗つたカップを貼り付けたり、「青いテープがいい」とラインは本物のように青くしたりして、リニアモーターカーが完成しました。出来上ると早速乗り込み、代わる代わる引っ張り合つて遊びだしました。

帽子を作らなきゃ

しばらくすると、遊び始めたメンバーだけでなく、学級の友達も興味を持つてかかわ

る姿が多く見られるようになつてきました。中心となつてているのはA児、C児、D児で、毎日のように遊んでいます。学級の前の廊下にビニールテープで線路を作り、駅名が書いてある看板や、踏切、洗車場など、子どもたちのアイデアでいろいろな物ができるようになりました。リニアモーターカーが近づくと開く踏切を通つて、青い半透明の梱包用テープで作つた洗車場を最後にくぐつて次の駅に向かうというコースも、繰り返し遊ぶ中で決まつていきました。駅の近くで、「乗りながら食べられます」と、女の子たちが開いたハンバーガー屋さんが始まる日もありました。肌色の折り紙の中に丸めた新聞紙を入れてパンを作つていくのですが、新聞紙を丸めていく手つきは本当にパンをこねているようです。一つの遊びがきつかけとなつて、イメージが膨らみ、遊びがつながつていきました。



ある日、「先生、帽子の作り方教えて」と、A児がD児と一緒にやつて来ました。帽子というのは、運転手の印としてかぶっている、紺色の画用紙で作った帽子のことです。「うん、一緒に作つてみよう」と画用紙を折つて一緒に作ることにしました。A児は以前一度作つているので、D児に教えてあげています。D児が帽子をまだ作つていなかつたことに気が付き、二人で作りに来たようでした。形が出来上がると、「ここに電車の絵を描いて貼るんだよ」とA児。D児は自分で描いた絵を貼るとうれしそうにかぶり、二人でリニアモーターカーの所へ戻り、再び遊びだしました。A児の友達に対する優しさや、仲間とのつながりを感じながら遊びを楽しんでいる姿をうれしく思いました。

旗が上がつたら出発ね

リニアモーターカーを廊下で走らせながら

遊んでいると、隣の年中組さんが段ボールを引いてやつて来ました。段ボールには引っ張れるようにひもが付き、側面にはクレヨンで模様が描いてあります。C児が「ここはリニアモーターカーの線路だからだめ」と言うと、「乗るのならいいよ」と、保育室から椅子を持つてきて駅に並べ始めました。やつて來た年中組さんも、早速椅子に座っています。線路をぐるっと回り、次の駅に着いたら、次のお客さんと交代するというコースです。うれしそうな年中組さんを見て、A児も引く手に力が入るようでした。私が言葉を掛けると、乗る時には車体を押さえてあげたり、ゆづくり引つ張つてあげたりと、相手の動きを見ながらかかわる姿も見られました。お客さんは途切れず、順番に乗せてあげて遊んでいると、C児が思い付いたかのように、急いで保育室

に入り、製作コーナーで何かを作りだしました。しばらくして戻ってきたC児の手には、画用紙を丸めた棒に赤い京花紙を付けた旗が握られています。それをD児に渡すと、「これが出発の合図だからね！」と勢いよく話しました。聞いてみると、その旗を上げたら、線路の安全が確認できたという印だ、ということでした。手作りの棒を持つて交通整理をしているC児の合図を見てD児が旗を上げ、A児が引っ張る、という流れをC児は考案したのでした。D児は「わかった！」と言つて、C児を一生懸命見ながら旗を上げました。それを見て出発するA児。時々お客様のことを見忘れてしまつていてるのは、というほど、互いの動きをよく見ていました。片付けの時間になる頃には汗びっしょり。「大人気だつたね」と話をしながら、満足そうに車庫にリニアモーターカーを停車させていました。

年少組の時から、作る楽しさ、作つて遊ぶ楽しさの経験を重ねてきた子どもたちは、作つて遊ぶことが大好きで、毎日いろいろな物を作つてはイメージを膨らませて遊んでいます。年長組になり、物や言葉を媒介にしながら、友達とイメージや目的を共有しながら遊ぶことを楽しむ姿も少しずつ見られるようになりました。今年は学級編成替えがあり、新しい友達との出会いもたくさんありました。それぞれが遊びを楽しむ中で、友達とのかかわりを広げていく姿が見られています。

子どもたちと過ごす生活は毎日が驚きや発見の連続で、子どもたちの豊かな感性や、真っすぐな気持ちに触れ、心が温かくなります。子どもたちの気持ちに寄り添いながら、一人ひとりの育ちにつなげていけるように、これからも学び続けていきたいと思います。

